



～学びとなつたこと～

<研究会メンバーによるまとめ資料>

**個人記録・実践記録・日々の記録を書くことで見えてきたこと
(保育の振り返り)**

<成果>

- ・一人ひとりの子どもの姿を今まで以上、丁寧に捉えることにより、子ども理解につながった。
- ・年齢や子どもの姿に応じた具体的なねらいが立てられるようになった。
- ・子どもの育ちにあったねらいや計画が立てられるようになってきた。
- ・ねらいの達成度にこだわるのではなく、その取組がどうだったのか、個々の子どもが喜んでいたか、夢中になって遊んでいたかを考察するようになった。
- ・乳児クラスにおいて、高月齢児と低月齢児で姿の違いを意識して考察するようになった
- ・ねらいに対しての評価や反省、環境設定はどうだったのかを考えるようになり、自分の保育の振り返りになった



<課題>

- ・毎日、一人ひとりを記録する時間の確保が難しい。
- ・自分一人で考察をすると行き詰まる時がある。
- ・複数担任のクラスでは、保育後に子どもの姿を共有する時間が取りにくい。
- ・一日一回は子ども一人ひとりと関わる時間を作ろうと意識しているが、できない時もある。

<課題に対してどう対応していくか>

- ・端的にまとめて書くことを意識する。
- ・子どもの姿を他の保育者と共有し、色々な意見を聞くことが大切である。
- ・複数担任のクラスでは、連携を取ることが大切なので、短時間でも話をする時間を作るよう心掛ける。
- ・日々の保育の中で、余裕をもって子どもと関わることを意識する。

今後、保育者として大事にしたいこと

- ・子ども一人一人に応じた丁寧な対応をしていきたい。
- ・子どものために今何が必要な関わりなのかを保護者と一緒に考えていきたい。
- ・子どもが楽しい、もっとしたいと思えるような保育を考え、実践していきたい。
- ・子どもが色々なことに気付く、発見ができるような環境作りをしていきたい。
- ・保護者の気持ちに寄り添い、信頼関係を築いていきたい。

保育者という仕事の魅力とは？

- ・子どもの成長をそばで見守ることができる。
- ・毎日子どもと関わることで元気や活気をもらえる。
- ・子どもや保護者との関わりの中で自分も成長できる。
- ・大きな行事が成功した時、子どもと一緒に達成感を味わえる。



<記録を書くことで見えてきたこと>

個々の記録を書くことで子どもたちの様子や何に興味があるのか、どういった援助が必要なのかが以前より明確になった。記録を書くことによって保育の見方、保育の視点が変わった。



<今後保育者として大切にしたいこと>

抱え込まず相談したり相談を受けたりと子ども・保護者が安心できるような保育をしていく。保育の視点も日々、見方を変えて子どもたちの発信したことを逃さないようにしていく。

<研究会に参加して学びになったこと>

記録の書き方や保育が子どもの視点になってなかつたのではないかと気づくことができ、見直すことができた。保育に1つの正解はなく子どもひとりひとりを認め受け入れていくことが大切だと思う。保育士間での共有が大事。



<保育士の魅力とは?>

子どもの成長を感じることができ、活気・元気(パワー)をもらえる。自分自身の成長にもなる。行事など準備は大変だったりするのだが、保護者、子どもが楽しんで参加できた時の達成感。



テーマ 振り返りを通して、教育・保育の充実につなげよう。

個人記録、実践記録等、日々の記録を書くことで見えてきたこと(保育の振り返り)

<成果>

- ・一人ひとりの子どもの様子をしっかり見るようになった。
- ・“ねらい”を具体的にたてるようになった。
- ・ねらいの達成にこだわらないことで、冷静に子どもを見るようになった。
- ・自分の行動を振り返り、時間がある時は、職員間での共有も出来るようになった。

◎日々の実践記録の書き方では、子どもたち一人ひとりが何をどう楽しんでいるのかという事実の捉え方が甘かったが、まずはねらいを具体的にたてることで、ねらいに対する子どもの育ちをしっかり意識して見えるようになった。あまり注意をすることなく、一人で何でも出来る子どもにも目がいくようになり、ほめる機会が増えた。



今後、保育者として大切にしたいこと

- ・子どものやりたいことを一緒に探し、一緒に楽しむ。
- ・一人ひとりの姿に合った対応や援助を心掛け、大事にされていることを子ども自身が感じられるように丁寧に関わる。
- ・自分で遊びを見つけてじっくり遊べるよう見守る。子どもが意欲的になれるよう待つ。

◎個々のねらいを育ちに沿って見直し、自分がやっていることは、押し付けてではないか？子どもの可能性をつぶしていないか？を考える。子どもたちが自ら気付く為に保育者は待つことも必要だと思うが、子どもの思ったことや感じたことに共感し、時には子どもが思い描く方向へ、導くこ

とも必要だと思う。子ども
主动の保育を目指す。



<課題>

- ・毎日、個人記録を書くことの労力。(時間外)
- ・個々の振り返りや職員間で振り返りをする時間がなかなかとれない。
- ・一人担任だと、具体的なねらいのたて方やそのねらいに対する解釈に行き詰まる時もある。

◎個々の育ちに寄り添う為の手段として記録を書き、必要とする個別配慮について考えるが、集団生活の中でどこまで出来るのか？保育園だけで解決できないこともある中、どのように家庭にアプローチしていくのか？等の課題も見えてきた。

時間外勤務ならまだいい方で、持ち帰り仕事が多い保育士業務を改善しながら、子どもの育ちに向き合っていくことの精神的負担も大きい。

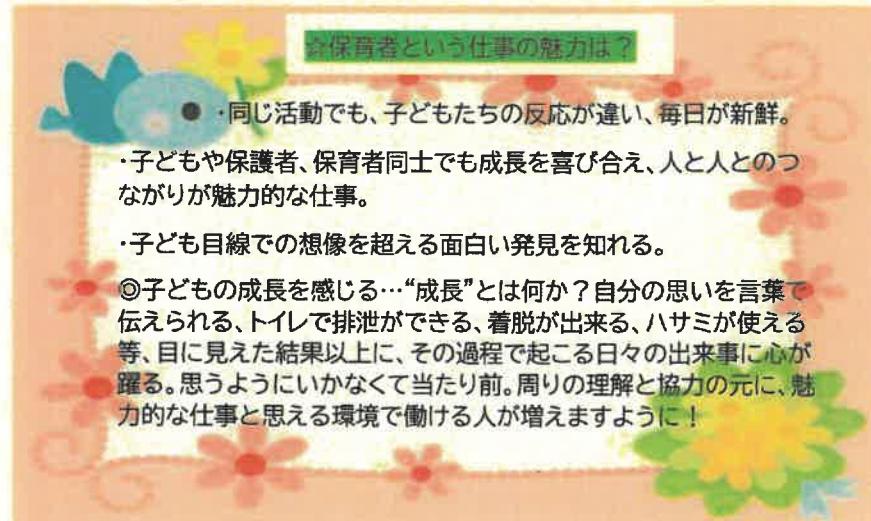
身近に相談できる人が 必要。



今保育者という仕事の魅力は？

- 同じ活動でも、子どもたちの反応が違い、毎日が新鮮。
- ・子どもや保護者、保育者同士でも成長を喜び合え、人と人とのつながりが魅力的な仕事。
- ・子ども目線での想像を超える面白い発見を知れる。

◎子どもの成長を感じる…“成長”とは何か？自分の思いを言葉で伝えられる、トイレで排泄ができる、着脱が出来る、ハサミが使える等、目に見えた結果以上に、その過程で起こる日々の出来事に心が躍る。思うようにいかなくて当たり前。周りの理解と協力の元に、魅力的な仕事と思える環境で働ける人が増えますように！



日々の記録を書くことで見えてきたことは？

《成果》

- ・子ども達のことを見ていると思っていたが、個人記録を書くことで一人ひとりをじっくり見れていないことに気付いた。その為、一人ひとりのことをしっかり見るように心がけるようになった。
- ・ねらいを抽象的にではなく、子どものどこを伸ばしたいかなど具体的に考えられるようになった。
- ・保育中と違い、後で冷静に振り替えることで子どものその時の様子や気持ちを考えることが出来た。
- ・一つの遊びの提供ではなく個々の興味や関心を把握しながら複数の遊びの提供を考えるようになった。
- ・保育者の行動や連携についても振り返るきっかけとなつた。



《課題》

- ・個人記録を毎日書くことが大変。
- ・自分の思いや気持ちをきちんと相手に伝えることが出来ているか。
- ・複数担任の場合、個々には振り返れてもそれを共有することはできるが、そこからどうしていくか話し合っていく時間をなかなか作れない。
- ・子ども一人ひとりの時間を一日のうちに作りたい。
- ・自分でねらい、考察をするときに行き詰ってしまう。
- ・評価反省が、感想文になってしまふ。



✿今後、保育者として大切にしたいこと

- ・達成度を目的としたねらいではなく、子どもがいかに楽しんで遊べるか、その中で子どものどんなところを伸ばしていくのかをふまえた保育のねらいを立てる。
- ・子ども一人ひとりが主体的に自分の好きな遊びを見つけじっくり遊べるよう、サポートし見守る。



✿保育者という仕事の魅力は？

- ・子どもの成長を感じ、子どもの笑顔からたくさんの元気をもらっている。
- ・同じ活動をしていても、日々同じ反応ではなく全く違う反応が返ってくることが楽しい。毎日、どんな反応かワクワクする。



日々の保育を振り返ることで、子どもの為だけでなく自分自身も成長できる機会!!

<自分で個人・実践の記録をとってみて>

- ・個々の子どもの特徴が見えた。
- ・子どもが興味をもっていることに気付けた。
- ・自分の保育を客観的に見ることができ、必要な配慮や工夫を考える機会になった。

<研究会の人たちと記録を共有してみて…>

- ・ねらいが具体的なものほど配慮や子どもの姿が捉えやすい。
- ・ねらいが明確なほど、どんな遊びを取り入れるかなど考えやすい。
- ・他の人の記録を見て、文章の表現や書き方などの参考になる。
- ・クラス間で共有すると子どもの捉え方の違いもあった。

<記録をとってみて見えてきた課題について>

- ・自分の保育だけでなく他の保育士の保育にも目を向けることも必要。 ・提供するあそびを多くもって、子どもの興味など観察する。
- ・個人の記録をとるための業務中で時間を取りれるようにする。 ・具体的なねらいを意識して取り入れていく。
- ・自分がさせたい遊びではなく子どものしたいことを取り入れられる様にする。

<今後、保育士として大切にしたいこと>

- ・子どもの発達を理解した上で、目の前の子どもの欲求や興味を保育に取り入れられる様にしていく。
- ・日常の活動を振り返り、保育士間で様々な視点で子どもの姿や支援を考える。
- ・子どもの姿を意識して観察する。



個人記録、実践記録、日々の記録を書くことで見えてきたこと(保育の振り返り)

成果

- ・1人ひとりの姿の記録をとることで、子どもの行動や言葉に対しての自身の着眼点のかたよりや主観的に見ていることに気付いた。



「もしかしたらあの行動には違う理由があったのかもしれない」
「次は違う働きかけをしてみよう、試してみよう」
など、自身の目に映る子どもたちの姿、気付きがちな姿だけではなく、
子どもたちの様々な姿に気付けるようにしよう、そのためにはどんな働き
かけをしたら良いだろうか?という客観的に見る意識につながった。

課題

実践記録を読み直してみると、「子どもたちは本当に意欲的だ
ったか?本当に意欲をもっている姿ってどんな姿だろう」と、自
身の働きかけと子どもたちの実際の姿の差や疑問が生まれた。
週案、日案などを立てる中で、働きかけが自分自身の「こう感じてほ
しい」「こんなふうに遊んでほしい」の思いになっているのではないか。



- ・ねらいに沿った働きかけをしっかりとと考え、実践していくこと。

今後、保育者として大切にしたいこと

- ・子どもそれぞれの意欲や興味
関心を引き出したり、それに
気付けるよう、子どもたちの
言葉や発見、姿を待ち、見守
ること。
- ・一緒に遊び、考えたり試した
りしながら子どもたちの発
見を共に楽しんでいくこと。



《保育者という仕事の魅力とは?》

子どもたちの目線での発見の面白さを知れ、自身の考えを柔軟にもつことの大切
さを感じることができる。大人は気付かなかったり考えもしない方向からの答え
や、新しい発想、色々な可能性を知ることができる。



自分の保育を振り返るために

記録をとる

記録をとることには2種類ある。

- ① 自分の保育の記録をとること
- ② 子どもの姿の記録をとること



保育者として今後大切にしたいこと

- ・保育の記録をとり、振り返って保育の見通しをもつこと。
- ・子ども一人一人の様子を普段から観察し、その子にあった支援をしていくこと。

保育者という仕事の魅力

- ・子どもたちと関わり、成長を感じられるところ
- ・働く中で、自分が学び成長できるところ
- ・子どもたちの成長に携われるところ

① 自分の保育の記録をとること

- ・年齢に応じてねらいを具体的に書いていく。
- ・保育を行ったその日に端的にでもいいので残しておく。
- ・メモ書きでも良いので継続していくことが大切である。
- ・保育所保育指針からねらいをおとしていく中で、子ども理解へつながっていく。記録をとる中で、全体の流れが見えてくる。

② 子どもの姿の記録をとること

- ・子どもの様々な面が見えてきて、子ども理解につながる。
- ・書きやすい子とそうでない子がいる。
 - より子どもの理解が深められるように個人記録を毎日書いていく。
 - 記録を書きにくい子には、意識して見ていく必要があることがわかる。
- ・保育者が思う「気になる子」とは?
 - なぜ気になるのかの理由を考えた上で、子ども目線に立ち記録をする。
- ・一人ひとりの様子を記録することにより、成長や次のねらいが見えてく

繼續して記録をしていくことで、
自分の保育のステップアップに繋がっていく。

個人記録、実践記録等、日々の記録を書くことで見えてきたこと

<成果>

- ・個別の記録では、個々の姿が具体的に見えてきた。関わるうえでどこに視点をおいて援助すればいいか等振り返ることができ、次への関わり方を見直すことができた。
- ・できるようになったこと等を見ていくことで、子どもの成長を感じることができた。また、その過程とともに、子ども自身でできることがたくさんあることにも気づいた。
- ・実践記録では、自分の保育の振り返り、常に考察するきっかけになってきた。
- ・自分自身の子どもの見方を知ることができた。(自身の育ってほしい姿でみていなか等)



<課題>

- ・個別で書くことでより深く子どもの姿が見えてきたが、一人ひとり書くには時間を確保することが難しかった。時間を短縮して書く方法があるといいと思った。
- ・記録書き方の工夫(書く視点を定める、困っている姿を書く、記録の用紙の工夫等)をすると、書きやすくなるのではないかと考えた。
- ・行事に追われると気になる姿ばかり書いてしまうことがあったので気持ちにゆとりをもつことが必要だと感じた。
- ・保育者の「こうなってほしい(成長してほしい)」という思いがねらいになり、保育者の視点で子どもの姿をみて(～することはむずかしい等)記録しているのではないかと気付いた。

今後、保育者として大切にしたいこと

- ・保育を振り返ることで、子どもに寄り添う保育の大切さに改めて気付いた。今後も大切にしていきたい。
- ・心にゆとりをもって保育をし、視野を広げ、子どもの声や思いを拾っていきたい。
- ・子ども一人ひとりを大切にし、大事にされていることを子ども自身が感じられるように丁寧に関わっていきたい。

保育者という仕事の魅力は?

- ・子どもの成長を見守り、子ども、保護者、保育者と成長を喜び合えること。
- ・人とのつながりが大切だと思う仕事。一人ではできないことも、他の保育者と協力して保育をしていくことも、とても魅力があると思う。



振り返りを通して教育・保育の充実につなげよう

○記録をとってみよう!!

個人記録、実践記録、日々の記録を書くことでみえてきたこと…

【成果】

○振り返り、個人記録を通して

- ・一人ひとり見ているつもりでも書き出すことで見れていたかった子がいることに気付き、今まで以上に一人ひとりを意識して見ることを心がけられるようになった。
- ・ねらいを立てるにあたり、何のために活動するのか、どこまでの援助が必要か深く考えるようになった。
- ・一人ひとりの想を理解することで自分自身が思っていたよりも子どもたちが自分で考えて出来ることが多く、今まで保育者が行っていたことも子どもに任せてみることで新たな発見をすることができた。

○実践記録を通して

- ・具体的なねらいを立てていたつもりでも見通すと評価、反省が書きにくく感じ、より具体的なねらいを立てることを意識するようになった。
- ・他者に伝えるときも実践記録があることで伝えやすく、活動内容などを互いにイメージしやすく意見交流がたくさんできた。

【課題】

○反省、評価、考察の書き方にについて

- ・具体的にポイントを絞って、どのような事実からねらいが達成できたのか出来なかったのか踏まえて書くことが難しかった。今後も書き方を意識しながら継続していく。
- ・現在の子どもの想を把握し、子どもの想に合ったねらいを立てる。

○情報共有の時間を作る

- ・複数の保育者と子どもの様子を伝えあう時間を作り、視野を広げ、色々な方向から子ども理解をし、援助や手立てを考えていく。

○他の園園につなげる

- ・毎日の子どもの様子を継続して書くことで個別の指導計画や要望など個人記録の活用につなげたり、職場内で子どもについて話し合う際も実践記録のように書き出すことでクラスの様子をわかりやすく発信していく。

これを踏まえて…
今後保育者として大事にしたいこと



○一人ひとりの特徴、姿に合った対応や援助を心掛け、丁寧な聞き・声掛けをしていく。
○子どもの想に寄り添った保育をしていく
○子どもと同じ目線に立って一緒に考えたい発見を楽しむ。





個人記録・実践記録等・日々の記録を書くことで見えてきたこと
(保育の振り返り)



【成果】

- ・一人ひとりの得意・不得意に対する配慮の方法の改善を深く考えることができた。
- ・個人だけではなく、クラスとしての目標ねらいを決めやすくなった。
- ・今は一人担任だが、複数担任に配属された場合、様々な視点で見ることができ、自分の視点を見直すきっかけになる。
- ・「子ども主体」を意識し、見守ることができるようになってきた。



【課題】

- ・目立つ子どもに視点がいってしまいがちなので、今後も継続して日替わりで見ることでまんべんなく見ることができると思う。
- ・就業時間内で終わらせることができるよう要点を絞る。



【今後、保育者として大切にしたいこと】

- ・偏った視点での判断にならないよう、書いたものを参考に主任等と共有する。
- ・クラス全体の活動内容や取り組みを進めることに意識がいきがちだが個々を見て丁寧に関わりを継続できるようにする。

【保育者という仕事の魅力は?】

- ・子ども同士の世界(人生の中で一番最初の「他者との関わり」)を見ることができ、もちろん責任もあるが、大人にはない発見や気付きの場に立ち会えること。



指導講評

この研修のテーマは「保育の振り返りを通して、教育・保育の充実につなげよう」です。小学校の入学までの就学前教育において「幼児期に育みたい資質・能力の3つの柱」が示されました。① 知識及び技能の基礎。② 思考力、判断力、表現力等の基礎。③ 学びに向かう力、人間性等 です。これらの資質・能力を、幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている内容を基に育みます。

したがって、「日々の教育・保育の実践がどうであったか」「子どもたちに育みたい資質・能力が十分実践できたか」を保育者として振り返り、次の保育の改善に努める必要（責任）があります。そこで、次の保育に活かすための「保育の振り返り」を意識して保育をするために「保育の記録」「一人ひとりの子どもの姿の記録」を書いてみようということにしました。

研究メンバーが記録したものを持ち寄り、次の保育につなげる記録のとり方や、記録することで見えてきた成果を話し合い1年間研究してきました。その成果が本資料です。「記録をとる」ということは、日々の業務の中では時間が足りず大変であるが、記録をとることで、子どもたちの姿や保育者の援助がより具体的に見えてきて「保育の魅力」を感じ取っていただいたように思います。それにも増して、研究メンバーは、何よりも「一人ひとりの子ども理解」「保育者の丁寧な援助の方法」が身に付き、保育者としては大きな宝になったことでしょう。1年間、保育の研究を重ね、より保育者として成長していただけたのではないかでしょうか。

東大阪大学 吉岡 真知子